

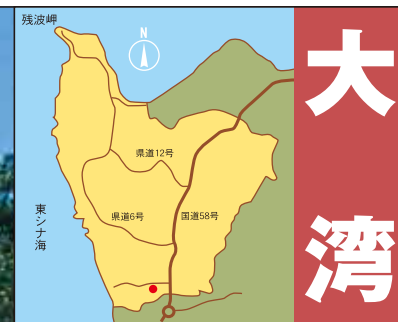


# 比謝砦

## HIJABASHI



## OWAN



# 大湾

### プロフィール

大湾は、比謝橋の北側に広がる古い集落です。慶長一四年（一六〇九）の島津氏琉球侵入時の三月二五日、運天の港（現今帰仁村）を船で発った喜安らは西刻に「大湾渡口」に着いています（喜安日記）。また島津側の『琉球渡海日々記』にも三月二九日夜半運天を出帆した高山衆らの船が船道三〇里ほどの「大湾」という所に着いたとあります。元々、「大湾」あるいは「大湾渡口」は、比謝川河口部の渡具知から大湾の比謝橋までの一帯の湊をさすと考えられます。『絵図郷村帳』（一六四六年）に「わん村」、「琉球国高究帳」（一七世紀中頃）には「湾村」、「琉球国由来記」（一七二三年）・『琉球国旧記』（一七三二年）には大湾村とあります。湾村を大湾村と改めたのは浦添間切の小湾村と区別するための王府の命を受けたものと考えられます。『向姓家譜』によると、近世末期首里通事を勤めた牧志朝忠は尚泰王八年（一八五五）から同十一年大湾村の脇地頭を務め大湾親雲上を名乗っています。『琉球国由来記』によると王府時代に「大湾ノ口」が置かれて古堅・渡具知・伊良皆・比謝の各村の祭祀主として地域周辺の祭祀を統括していました。

### 緑豊かで潤いのある地域

戦後は元集落に復帰しましたが、国道沿いにおいては、早くから市街化が進みました。また、米軍基地に近いため外人住宅などが建ち、密集した街となつて今日に至っています。

大湾地区は比謝川・長田川にも近く緑豊かな地域で、読谷村の「モデル集落緑化計画」が策定されており、潤いのある住環境づくりに向け地域住民が積極的に緑化・美化運動に参加しています。国道五八号沿いの花壇は、読谷村を訪れる人々の目を楽しませており、一九九八年に全国みどりの愛護功労で建設大臣賞を受賞しています。

一九九九年三月、嘉手納薬庫地区の国道五八号沿い東側が返還され、その地主で組織する返還地区地主会を中心に緑化を考慮した跡地利用の取り組みが進められています。

### 読谷のヒンプン

ヒンプンは、仕切り壁や囲い等を意味する中国語の屏風に由来し、外部からの視線をさえぎる目隠しの機能だけでなく、悪霊を防ぐという信仰上の役割も担っています。比謝橋を渡って読谷に入ると村道大湾六号線植樹帯に堂々たるデイゴの木があります。このデイゴは読谷のヒンプンとなっています。比謝橋から国道沿いを含む全体の玄関づくりとして緑化運動を展開することを目標としています。

### プロフィール

比謝砦は読谷村の南の玄関口にあたります。比謝川に架かる比謝橋は、かつて吉屋チルーが「恨む比謝橋や 情きねん人ぬ わん渡さとむて かきてうちえら」と詠んだ由緒ある橋です。明治頃から山原船の商港化と共に栄えた新しい街で、一九一四年（大正三）に大湾から独立発足しました。戦後は軍用地や道路に接収され、住民は他地域に移り住んでいます。



吉屋チルーの碑



ビジュアル



大湾伝統芸能「浜千鳥」



「和陸」の旗頭を先頭に旗スガシー